



北海道道東地方における「地域伝承文化」「地域伝承文化教育活動」研究の課題と展望：
根室市瑛瑤瑠地区における「瑛瑤瑠獅子神楽保存会」
「瑛瑤瑠獅子神楽子供会」の事例から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2016-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮前, 耕史 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9953

北海道道東地方における「地域伝承文化」 「地域伝承文化教育活動」研究の課題と展望

— 根室市瑠瑠瑠地区における「瑠瑠瑠獅子神楽保存会」
「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」の事例から —

宮 前 耕 史

(北海道教育大学釧路校)

An Assignment for Studying Regional Culture and Regional Culture Education in Eastern Hokkaido

Yasufumi MIYAMAE

はじめに

本稿は、北海道道東地方、とりわけへき地・小規模校における「地域伝承文化」および「地域伝承文化教育活動」について¹、根室市瑠瑠瑠地区における「瑠瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」を事例として、その成り立ちの経緯や現在の活動等についてフィールドワークの成果に基づき報告を行なうと同時に、これに基づき若干の考察を行なって、上記研究にかかる今後の調査・研究課題について述べるものである。

ところで本稿が対象とする「地域伝承文化」について、これらを主たる研究テーマとしてきたのが日本民俗学である。しかし従来、北海道道東地方の地域社会を対象として、民俗学的調査研究が行なわれたことはほとんどなかったと言ってよい。

宮良高弘は北海道における民俗学的地域社会・地域文化研究の不在の理由について、「これまでのわが国の民俗学研究が「伝統的社会が担う伝統文化の記録・解明・分析にその中心をおいてき」ており、「主として明治以降、46都道府県からの移住者によってもたらされた北海道の和入（中略）の生活文化は、伝統文化に対して枝葉の文化でありまして、研究の対象となり得なかった」からであると述べ、その要因として民俗学における過去遡及的な研究の志向性の存在を指摘しているが〔渡邊欣雄・桑原真人1993〕、このように述べる宮良も道東地方において調査研究活動を展開することはなかった²。

ここにはおそらく、道東地方が宮良の居住地である札幌からは地理的僻遠の地にあり、調査そのものが物理的

に困難であるとの事情があったと考えられるが、このような状況にあつて、同地方各地において、町内会や地区、神社や学校を単位として盛んに刊行される『町内会史』『記念誌』『沿革史』の類は貴重な資料であつて、これらの所在の確認と収集・整理そのものが、今後の課題としてまずあげられなければならない³。

取り急ぎ第一の課題について述べたが、以下、本稿ではまず調査地である瑠瑠瑠地区について概観した上で、同地区における「地域伝承文化」として「瑠瑠瑠獅子神楽」を取り上げ、その担い手としての「瑠瑠瑠獅子神楽保存会」、「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」の成り立ち、およびその現在の活動等といった事柄について、（注3）において見たような資料を参照しつつ、またフィールドワークの成果に基づき報告を行っていく。その上で若干の考察を行ない、今後における調査・研究の課題について述べる。

1. 調査地概観

(1) 瑠瑠瑠地区

根室市瑠瑠瑠地区は、国道44号線（根釧国道）の終点である根室市街地から道道35号（根室半島線）の太平洋側をさらに20キロほど東に進み（自動車で20～30分）、北海道最東端の納沙布岬まで約2キロ（自動車で約5分）、根室半島のほぼ先端部に位置する人口577（男299、女278）人、世帯数153世帯（平成22年12月31日現在、根室市HPより）の地区である。

明治5年にコヨマイ村として成立し、明治8年に村名

表記を「瑠瑠瑠村」と改称、その後、大正4年に友知村・沖根婦村・沖根辺村・婦羅理村・齒舞村と合併、齒舞村（二級町村）となり、さらに昭和34年に根室市に編入、根室市瑠瑠瑠となった。

明治5年の村成立時には夏季昆布刈取りに漁民が出張するだけで人家はなかった。明治28年には人口195人、戸数50戸となるが、うち定住は20戸程度で、残り30戸は季節的な出稼ぎであったという。明治44年には人口756人、156戸と明治年間を通じて人口・戸数とも増加し、定住の傾向が看取される〔角川日本地名大辞典編集委員会編1987〕〔平凡社地方資料センター2003〕。

第11次漁業センサス「漁業集落カード」によれば、平成12年10月1日現在、総人口696人・総世帯数158世帯、うち漁業世帯数が121世帯（個人漁業経営体数120、うち専業70、漁業を主とする兼業が48、漁業を従とする兼業が2）、漁業世帯員数が591人という漁業の町で、ほぼ全世帯が昆布漁に従事している⁴。漁業暦としては3月1日～5月1日に「ウニのタモ取り」、6月1日～9月30日に貝殻島付近で昆布採取を行なう「貝殻操業」、10月には「猫足昆布」、12月半ば～2月半ばにかけウニの「潜水漁業」がある。後述する瑠瑠瑠金刀比羅神社例大祭（10月2・3日）が終了すると、「内地」に出稼ぎに出かける者もあり、また、かつては「所得の均衡を図る」との観点から秋鮭の定置網漁業も行なったという。

地区内は第一町会～第二町会の4町会に分かれ、うち第四町会にのみ「トリトイシ（取戸石）地区」との別称（旧称）がある。各町会の詳細な構成等については未調査で不明な点も多く、今後の課題としなければならないが、各町会内部はさらにいくつかの班に分かれ、第一町会は42～43軒、第二町会は24～25軒、第三町会は26～27軒、第四町会は42～43軒で構成される。また、各町会に独自の町内会館（集会所）がある。地区住民の中にはいわゆる北方領土からの引揚者もあり、また若干の本分家ないし親戚関係にある者も含まれている。

(2) 瑠瑠瑠金刀比羅神社

地区内には瑠瑠瑠金刀比羅神社があり、役員として「責任役員」が瑠瑠瑠地区全体で1名、また第一町会～第四町会の各町会に「総代」が1名ずつある。

『瑠瑠瑠金刀比羅神社御創祀70周年記念誌』によれば、瑠瑠瑠金刀比羅神社は大正11年春に「部落会議」にて神社設立が議決され、部落全戸より1名ずつの出動や青年団の労力奉仕により同12年、根室金刀比羅神社に御分霊を請願、大物主大神・事代主大神・倉稻魂大神の三神を奉鎮、その後昭和42年に新社殿竣工、宗教法人登記、同44年に境内地を取得し、同61年には同境内に「祭典の隆盛と余興その他の殷賑を期し」「参集所」を建設した〔高

岩光男（発行責任者）1993〕。

例大祭は10月2～3日にかけて行われ、その際「瑠瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」により「瑠瑠瑠獅子神楽」が奉納される。なお、例大祭が平日となった場合でも、直近の土日曜日に日程を変更することなく10月2～3日に行っている⁵。

(3) 根室市立瑠瑠瑠小学校

学校としては瑠瑠瑠地区内に根室市立瑠瑠瑠小学校があり、瑠瑠瑠地区および隣接する納沙布地区のすべての学齢期児童が通学するが、地区内に中学校はなく、同校を卒業した児童は隣接齒舞地区にある根室市立齒舞中学校へと進学する。平成22年9月現在の児童数は1年生5名（単式）、2年生6名（単式）、3・4年生、5・6年生が複式クラスでそれぞれ11名、10名の計32名である（【表1】参照）。

なお瑠瑠瑠小学校は平成25年度より近接する共和・華岬・温根元の三小学校とともに齒舞中学校に新たに附設される齒舞小学校（仮称）へと統合されて、廃校される運びとなっている。

【表1】平成22年度瑠瑠瑠小学校の学級構成

学 年	人 数	単・複
6年生	10	複 式
5年生		
4年生	11	複 式
3年生		
2年生	6	単 式
1年生	5	単 式

(4) そ の 他

齒舞地区には真宗大谷派真宗寺があり、瑠瑠瑠地区住民の多くがその檀家であるという。真宗寺には瑠瑠瑠保育園が敷設され、瑠瑠瑠・納沙布地区の他、豊里地区の子供たちが通園している。

2. 「瑠瑠瑠獅子神楽」・「瑠瑠瑠獅子神楽保存会」・「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」

(1) 「瑠瑠瑠獅子神楽」

瑠瑠瑠獅子神楽保存会発行（昭和61年）『結成20周年記念誌「あゆみ」』に掲載された「座談会」記録によると、瑠瑠瑠獅子神楽は「大正2年に齒舞光明寺新築落成入仏式に奉納されたのが始まり」である〔瑠瑠瑠獅子神楽保存会1986, p.10〕。この時の舞い手については諸説あり、同座談会でも中村源三郎・中村九郎左衛門・能登源作の3名であるとする説（新夕（鉄））、中村九郎左衛門・能

登源右衛門の2名であるとする説（内山（根室市史編纂室））、中村源三郎・中村九郎左衛門・能登源作の3名であるとする説（新夕（留））が披歴されている。なお、中村源三郎と九郎左衛門とは親子の関係である。

また、「昭和53年保存会員で富山県黒部市で文化交流したとき、現在富山県沓掛の獅子神楽の指導者である中村久作さん当時77歳に会って話をきいたところ」として紹介されているところによると、中村源三郎は兄の中村文次郎より獅子舞を習ったものであるという。

いずれにせよ、瑠瑠獅子舞の発祥・由来は、富山県黒部市で中村源三郎が兄の文次郎から習得し、その後源三郎の瑠瑠地区への移住とともにもたらされ、源三郎と九郎左衛門の親子2名を中心に展開したものであるとすることができる。

しかし、大正2年以降、昭和2年まで瑠瑠獅子神楽は踊られることもなく、しばらく忘れられた存在であったものらしい。そこで「このままではとって滝沢宗次郎さんが世話役になって瑠瑠1区の青年に呼びかけて習い始めた」のが昭和2年8月20日過ぎのことで、中村源三郎と九郎左衛門の親子2名を師匠とし、1区青年新夕留吉・滝沢松太郎・滝沢貞吉・滝沢政吉・石田勇吉・滝沢鉄太郎・新田留吉・遠藤常吉らが手ほどきを受け、その後大徳寺釣鐘堂落成式（昭和4年）や瑠瑠真宗寺入仏式（昭和10年）、歯舞神社例大祭や瑠瑠神社例大祭に山車（神輿行列の一部か？）や夜の余興として1区青年により奉納された〔瑠瑠獅子神楽保存会1986, p.10〕。また、昭和16年に青年団が結成されると、獅子神楽は1区青年より青年団へと継承されていったという⁶。

(2) 「瑠瑠獅子神楽保存会」とその活動

瑠瑠獅子神楽をめぐる戦後～瑠瑠獅子神楽保存会結成（昭和42年）にかけての約20年間の動向は明確ではないが、昭和21年に再結成された瑠瑠青年団を中心に、瑠瑠金刀比羅神社例大祭はじめ隣接歯舞地区の歯舞神社例大祭等において舞われていたのではないかと推測される⁷。

昭和40年代になると青年団が自然消滅、「獅子神楽を踊っていた人たちが段々とやめ、用具もばらばらになりこのままであれば獅子神楽は終りになると瑠瑠1区高岩光男氏が世話人となり保存会を結成し初代会長に滝沢松太郎を選び」、昭和42年、瑠瑠獅子神楽保存会が結成された⁸〔瑠瑠獅子神楽保存会1986, p.11〕。

その後昭和60年までの同保存会の活動状況は『結成20周年記念誌「あゆみ」』に詳しいが（【表2】参照）〔瑠瑠獅子神楽保存会1986〕、昭和43年には根室市無形文化財の指定を受けると同時に同年、根室市文化奨励賞を受賞している。

【表2】「瑠瑠獅子神楽保存会」の活動（昭和42年～昭和60年）

年	事項
昭和42年	瑠瑠獅子神楽保存会結成
	根室管内青年大会出演
昭和43年	文化奨励賞受賞
	根室市無形文化財指定
	根室市開基百年事業参加
昭和44年	NHK ふるさとの歌まつり参加
	全道教育委員大会出演
	瑠瑠小学校開校70周年記念行事出演
	根室管内 PTA 研究大会出演
昭和45年	歯舞漁協事務局落成祝賀会出演
	根室市観光協会主催流水祭り出演
昭和46年	根室管内漁協貯蓄推進委員大会出演
昭和47年	根室市成人祭出演
	ライオンズクラブ10周年記念出演
昭和48年	根室市成人祭出演
	根室管内芸能祭参加
	北海道芸術祭民俗芸能祭参加
昭和50年	北海道教職員組合大会出演
昭和51年	NHK 取材
昭和52年	根室観光協会主催カニ祭り出演
昭和53年	NHK 取材
	姉別神社祭典出演
	道東婦人部大会出演
	姉妹都市富山県黒部市へ文化交流
昭和55年	黒部市よりバレーボール交流懇親会出演
	管内教育実践表彰
昭和56年	納沙布シンボル像「四島のかけ橋」除幕式祝賀会出演
昭和57年	アサヒビール会出演
昭和60年	根室市産業祭出演
	日専連道東地区大会出演

*〔瑠瑠獅子神楽保存会1986, pp.13-14〕より作成。

保存会で「瑠瑠獅子神楽」を舞う機会としては、まず瑠瑠金刀比羅神社例大祭での「山登り」や「余興」における奉納獅子神楽が最大のものである。現在（平成22年）では、花咲港地区の花咲港金刀比羅神社例大祭（10月9～10日）最終日の夜の余興の部にも呼ばれる他、11月に開催される「根室市文化祭」も恒例の舞台となっている。また、昭和53年に結成された「瑠瑠獅子神楽子供会」の指導を通じて後継者の育成にもあたる。

平成22年現在、会員は17名ですべて男性、20歳代～40歳代までであり、10歳代、50歳代の会員はいない⁹。

演目として「石踊り」「酒樽取り」「一人の大天狗」「一人の大神楽」「4人の長棒」「4人の大神楽」「4人の手踊り」「4人の傘踊り」の8演目があり、「4人の長棒」「4



【写真1】「瑠瑠獅子神楽保存会」練習風景（平成22年9月15日，瑠瑠金刀比羅神社参集所）

【表3】「瑠瑠獅子神楽保存会」・同「子供会」演目

演 目	保 存 会	子 供 会
石踊り	○	—
酒樽取り	○	—
一人の大天狗	○	—
一人の大神楽	○	—
(4人の)手踊り	○	○(5, 6年生)
(4人の)長 棒	○	○(5, 6年生)
(4人の)傘踊り	○	○(5, 6年生)
(4人の)大神楽	○	○(3, 4年生)

- * 「4人の」と附記される演目は小学生による演目の場合、4人により舞われるとは限らない。
- * 「酒樽取り」は平成22年瑠瑠金刀比羅神社例大祭において小学生（3年生2名，4年生1名）が「保存会」の演目として試行的に披露した。

人の大神楽」「4人の手踊り」「4人の傘踊り」は次に述べる「瑠瑠獅子神楽子供会」の演目としても舞われるものである（【表3】参照）。

練習は瑠瑠金刀比羅神社祭礼の行われる一ヶ月ほど前から漁が休みとなる日を利用して行なっており，金刀比羅神社例大祭が終ると翌年6月頃まで「内地」に働きに出かける会員もあり，「保存会」の練習や「子供会」への指導を行う例大祭前の時期を除いて，会員が集まる機会はほとんどないという。

(3) 「瑠瑠獅子神楽子供会」とその活動

「瑠瑠獅子神楽子供会」は，昭和53年，「郷土芸能の伝承と後継者育成のために（中略）瑠瑠小学校の協力を得て（中略）3年生以上の希望者（8名）を集めて」結成されたものである。小学校ではこれを「特別活動」と位置付け，週1回，土曜日の午後に「瑠瑠獅子神楽保存会」の会員を指導者として練習を行なった。「練習には保存会の役員はもちろん小学校の校長先生始め子供

会担当教師の熱心な協力と指導により神楽の本当の面白さの強調に努めたので，子供たちは練習の苦労をのりこえて53年度の学芸会で練習の成果を発表し好評を博している。その後も活動は続けられ，現在（平成12年—引用者・注）41名の会員を得るに至っている」という〔根室市立瑠瑠小学校開校100周年記念奉賛会2001，p.99〕。

現在（平成22年度），瑠瑠小学校では「瑠瑠獅子神楽子供会」の活動を「総合的な学習の時間」における学習活動の一環として位置付け，行っている。そこで，瑠瑠小学校における「総合的な学習の時間」の全体像と，そこでの「獅子神楽子供会」の位置づけについて，節を改めて検討しておく。

3. 瑠瑠小学校における「総合的な学習の時間」と「獅子神楽子供会」

瑠瑠小学校では，「自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，よりよく課題を解決する資質や能力を育てること」等といった「総合的な学習の時間のねらい」と「地域保護者の学校教育への関心が高く」「地域の大半が漁業従事者である」といった「地域の実態」等を踏まえ「総合的な学習の時間」の全体計画を作成，平成23年度からの新しい『小学校学習指導要領』の完全実施に向け準備を進めている。

平成22年度は試行的な実施段階にあり，「地域（人，自然，社会等）や子どもの実生活を大切にした単元設定を行う」「体験活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れる」といった「基本方針」と，従来，「総合的な学習の時間」の指導計画については各学年の任意により単元構成行っていたが，こうした方法によると各学年で重複や逆転現象が予想されるとの反省に基づいて，学校全体で取り扱う内容のある程度統一し，学年間で系統性を持たせた学習活動を行なうこととした。その結果，同校では下記のようなテーマに関する学習活動を学年進行で行なうことを検討している。

- ① 環境・福祉（ボランティア）
- ② 地域の伝統—獅子神楽
- ③ 情報（PC 関連）
- ④ 地域の文化—棹前昆布
- ⑤ 国際理解—北方領土

「獅子神楽」は「地域の伝統」に関わり取り扱うこととされ，具体的内容は不明であるものの，4年生では「what's the 獅子神楽」，5年生では「獅子神楽今昔物語」，6年生では「日本獅子神楽紀行」と称し，PCの取扱いを中心とする「情報」関連の学習や，「棹前昆布」を中心とした「地域の文化」に関する学習活動とも関わって，「獅子神楽」関連のHP 閲覧による情報の収集と整理・



【写真2】「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」練習風景（平成22年9月15日，根室市立瑠瑠瑠小学校）

活用，さらには情報発信といった学習活動が検討され，行われているものと推測される。

が，しかし「地域の伝統—獅子神楽」に関する学習活動の中心は，「瑠瑠瑠獅子神楽保存会」会員を招いての，「瑠瑠瑠獅子神楽」の習得である。小学校では「総合的な学習の時間」のうち15時間ほどを「地域の伝統—獅子神楽」の学習にあてているが，このうちの数時間を「子供会」の練習にあて，「瑠瑠瑠獅子神楽保存会」会員を指導者として迎え，瑠瑠瑠金刀比羅神社例大祭のひと月ほど前から集中的に練習を行なっているという。

「子供会」の演目としては，「保存会」の保持する8演目の中から「4人の長棒」「4人の大神楽」「4人の手踊り」「4人の傘踊り」の4演目があり，「手踊り」「長棒」「傘踊り」を高学年（5・6年生）が，「大神楽」を「初心者」（3・4年生）が練習し（【表3】参照），瑠瑠瑠金刀比羅神社例大祭の「山登り」や「余興」の一環として奉納する他，瑠瑠瑠小学校学芸会・根室市文化祭等において披露している（【表4】参照）。練習を行うのは金刀比羅神社祭礼前の一ヶ月ほどの期間のみで，学芸会や文化祭等において披露する場合でも，休み時間や昼休みにちょっとした位置確認などをするだけで，改めて「保存会」会員を招いての練習の時間を設定することなどはないという¹⁰。

【表4】「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」の活動（昭和53年～昭和60年）

年	事項
昭和53年	瑠瑠瑠獅子神楽子供会結成
昭和54年	根室市文化祭出演 瑠瑠瑠小学校80周年校舎改築落成記念出演 獅子頭天狗面新調 NHK取材

*【瑠瑠瑠獅子神楽保存会1986，pp.13-14】より作成。

4. 平成23年度における「瑠瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」の活動

(1) 入会式

平成22年5月28日（金曜日），「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」では瑠瑠瑠小学校体育館を会場として，保存会会員（会長・副会長・事務局長）も招いて入会式を行なった。校長，保存会会長による挨拶ののち，新入会員（3・4年生11名）が一人ずつ抱負を述べ，5・6年生により全4演目が披露された（『根室新聞』記事「子供獅子神楽入会式—消さないぞ！伝統の踊り—3，4年生11人が入会」）。

(2) 瑠瑠瑠金刀比羅神社祭礼

【表5】は平成22年10月2～3日にかけて行われた瑠瑠瑠金刀比羅神社例大祭において行われた奉納・余興関係の行事を，配布された『プログラム』に基づきまとめたものである。「瑠瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」の出演・参加する「獅子神楽」関係の奉納・余興行事は2日間のうち5回，①宵宮余興（「子供会」）②宵宮余興（「保存会」）③本祭「山登り」（「保存会」・「子供会」）④奉納獅子神楽（「保存会」・「子供会」）⑤本祭余興（「保存会」）である。ただし，本節以下において詳しく見ていくように，「保存会」の演目として，「子供会」の会員でもある小学生が今年初めての試みとして「酒樽取り」を演じる場合もあり，また本祭「奉納相撲」や本祭余興「よさこい」のように，子どもたちは「子供会」・「保存会」による「獅子神楽」を通じてのみ例大祭に関係をもっていくわけではない。

① 宵宮余興（「子供会」）

平成22年10月2日（土曜日），瑠瑠瑠金刀比羅神社「参集所」において行われた同神社例大祭宵宮「余興」として，開会の挨拶に引き続き，トップを切って披露されたのが「瑠瑠瑠獅子神楽子供会」（『プログラム』では「獅子神楽保存会（小学生）」と記載されている）による「獅子神楽」である（『プログラム』には「獅子舞」と記載されている）（19時10分～）。演目は「長棒」「大神楽」（10人），「手踊り」（8人），「傘踊り」（8人）であった。「保存会」にあってはこれらはすべて4人で舞われる演目であるが，「子供会」による演目として演じられる場合には，「子供会」の会員構成により人数が変更される場合があるものと考えられる。

② 宵宮余興（「保存会」）

各区婦人部による「踊」の披露の後，「保存会」により「獅子神楽」が演じられた。演目は以下の通りである。

- ・「酒樽取り」（小学生，3名）
- ・「一人の大神楽」（「保存会」）
- ・「酒樽取り」（「保存会」）である。

【表5】平成22年度瑠瑠瑠金刀比羅神社祭礼日程

月 日	時 間	事 項	参 加 者	場 所
10月2日	18:00～	宵宮祭の儀式	神社役員	神社本殿
	19:00～	宵宮余興 ①獅子舞 ②踊「契り酒」 ③踊「風連湖」 ④踊「金沢の雨」 ⑤踊「きよしのズンドコ節」 ⑥獅子舞 ⑦唄「歌謡ショー」	獅子神楽保存会（小学生） 1区婦人部 2区婦人部 3区婦人部 4区婦人部 保存会 成瀬みのり（プロ歌手）	参集所
10月3日	9:00～	本祭の儀式	神社役員	神社本殿
	10:00～	山登り	各町会婦人部・獅子神楽保存会	神社参道
	10:30～	奉納 ①獅子神楽 ②よさこい ③奉納踊り ④よさこい 記念写真 餅まき	獅子神楽保存会（小学生） 保育園児 各町会婦人部 中学生 全員 全員	神社境内
	正午～	奉納相撲	保育園児・小学生・中学生	参集所
	18:00～	本祭余興 ①踊「よさこい」 ②獅子舞 ③踊「浪花川」 ④踊「恋瀬川」 ⑤踊「居酒屋かもめ流れ酒」 ⑥踊「安芸の宮島」 ⑦マジックショー ⑧大抽選会	小学生 獅子神楽保存会 1区婦人部 2区婦人部 3区婦人部 4区婦人部 ジョーカーたけし 全員	参集所

*平成22年度瑠瑠瑠金刀比羅神社例大祭プログラムをもとに作成。

*あらかじめ配布されたプログラムと実際のプログラムとは若干構成が異なっていた。【表5】における記載はあらかじめ配布された『プログラム』にのっとったもの、本文中の記載は実際のプログラム進行に基づく表記である。

うち、最初に演じられた小学生による「酒樽取り」は「子供会」のメンバーでもある小学校3年生2名、4年生1名によるもので、「後継者育成」との観点から、「とりあえず、やらせてみたらとうかな」ということで。子どもたちに聞いてみたら、『やってみたい』ということだっ

たので」ということから（保存会会長・小田島義浩氏）、今年（平成22年）初めて試みられたものである。観客席からは大きな拍手喝さいを浴び、おひねりが飛んだ¹¹。

③ 本祭「山登り」（「保存会」・「子供会」）

「山登り」とは、瑠瑠瑠金刀比羅神社例大祭の本祭当



【写真3】「獅子神楽保存会」による獅子神楽（宵宮余興，平成22年10月2日）



【写真4】瑠瑠瑠金刀比羅神社例大祭「山登り」（平成22年10月3日）

日10月3日、神社本殿において宮司を招いて行われる「本祭儀式」に続き行われる奉納行事で、ここに関わる各種団体が隊列を組み、神社参道を本殿前まで「登って」いくというものである¹²。

例大祭役員、獅子神楽子供会、「よさこい」の中学生（歯舞中学校）、同じく保育園児（よさこい）、獅子神楽保存会、第一～第四の各町会婦人部と続く。本殿前まで行進すると、本殿前広場を舞台に見立てるように、参加団体・観客等が輪になって座る。

④ 奉納獅子神楽（「保存会」・「子供会」）

「山登り」の行列が本殿前に到着すると、神社役員の挨拶に続き奉納されるのが「子供会」「保存会」による「瑠璃瑠獅子神楽」である（10時～）。『プログラム』には「獅子神楽保存会（小学生）」との記載があり、「子供会」による奉納獅子神楽が予想されたが、実際には演じられたのは「保存会」によるものを含む以下の演目であった。

- ・「長棒」（「子供会」、8名）
- ・「大神楽」（「子供会」、10名）
- ・「手踊り」（「子供会」、8名）
- ・「傘踊り」（「子供会」、8名）
- ・「一人の大神楽」（「保存会」）
- ・「酒樽取り」（「保存会」）



【写真5】「瑠璃瑠獅子神楽子供会」による獅子神楽奉納（平成22年10月3日）

⑤ 本祭余興（保存会）

本祭当日の余興は18時開演、小学生による「よさこい」のあと演じられるのが「保存会」による「獅子神楽」である（『プログラム』では「獅子舞」と記載）（18時05分～）。ここでは以下の演目が舞われた。

- ・「大神楽」（「保存会」、4名）
- ・「手踊り」（「保存会」、4名）
- ・「長棒」（「保存会」、4名）
- ・「傘踊り」（「保存会」、4名）
- ・「酒樽取り」（「小学生」、3名）



【写真6】「瑠璃瑠獅子神楽保存会」による獅子神楽（子どもによる「酒樽取り」）（本祭余興、平成22年10月3日）

最後に演じられた小学生による「酒樽取り」は前日宵宮余興において演じられたものと同様のものである。ただし、「緑天狗」が酔って寝入ってしまう場面に、自分が飲み干した酒樽を枕にするという変更が加えられ、観衆の喝采を浴びた。飲酒の経験のもちろんない小学生にそのような変更のアイデアが浮かぶはずもなく、保存会会員によるアドバイスがあったものと考えられる。また、「おひねり」が飛ぶという光景も前夜同様見られたが、「保存会」会員が「獅子神楽」の衣装をまもって舞台上に登場し、おひねりを舞台に撒いてまわるといった場面が加えられ、喝采を浴びた。

(3) 平成22年度根室市文化祭邦楽舞踊大会

11月6日（土）～11月7日（日）、根室市総合文化会館大ホールを会場として、平成22年度根室市文化祭「邦楽舞踊大会」が開催された。【表6】は当日のプログラムをまとめたものである。



【写真7】根室市文化祭邦楽舞踊大会（平成22年11月6日、根室市総合文化会館）

【表6】平成22年度根室市文化祭邦楽舞踊大会（11月6・7日根室市総合文化会館大ホール）プログラム

月 日	時 間	演 目	題 目	出 演	
11月6日（土）	第一部	獅子舞	弁天囃子・馬鹿囃子	根室すずらん学園獅子舞クラブ	
		民謡	下ドサイ節 りんご節 出船音頭 根室女工節 江差追分 波声音頭 十勝馬唄 刈干切り唄	根室民謡協会・旭声会	
		新日本舞踊	剣山	泉秋流泉秋知扇社中	
		獅子神楽	傘おどり 長棒おどり 手おどり 酒樽取り	瑤瑤獅子神楽保存会	
		新日本舞踊	伊豆の宿	泉秋流泉秋知扇社中	
	第二部	箏曲	鷹	生田流正派根室会	
		手踊り	津軽あいや節 津軽よされ節 津軽じょんがら節	石川流津軽手踊り根室支部	
		和太鼓	海流 KAZE—かぜ—	落石潮会	
		和太鼓	お祝い太鼓 ぶち合わせ太鼓 族	昆布盛太鼓保存会	
		新日本舞踊	ふたり花	泉秋流泉秋知扇社中	
		獅子舞	弁天囃子・馬鹿囃子	厚床獅子舞保存会	
	11月7日（日）	第一部	民謡	外山節 北海たんと7節 道南口説き 北海樽こぎ節	根室民謡研究会
			日本舞踊	寒櫻 辰巳恋姿	泉徳成会・泉徳玲舟会
			日本舞踊	花の手古舞	花柳喜志甫会
お囃子			しゅんどう・四丁目 ばかばやし・神田ばやし あやめ。四町会 シェイク・いつかまた	四祭典区お囃子保存会	
日本舞踊			序の舞恋唄 梅川忠兵衛（雪のみちゆき）	泉秋流泉秋知扇社中	
尺八			本曲平和の山河	(社)日本尺八連盟釧根竹子会	
箏曲・尺八			北海民謡調	宮城社ネムロ・(社)日本尺八連盟釧根竹子会	
第二部		箏曲	きぬた	宮城社ネムロ	
		日本舞踊	長唄 浦島	花柳喜志甫会	
		日本舞踊	山鹿恋灯り 雪の浜町河岸	泉徳成会・泉徳玲舟会	
		民謡	新庄節 長者の山 北海浜節 千島女工	根室民謡研究会	
		フラダンス	ボライライ フキラウソング	フラサークル アロハ	
		日本舞踊	佐渡の舞扇 宵宮の祭	泉徳成会・泉徳玲舟会	
		和太鼓	お祝い太鼓 鼓魂・北方 彩～いろどり～	ねむろ太鼓保存会 (ねむろ太鼓ジュニア)	

*平成22年度根室市文化祭邦楽舞踊大会パンフレットより作成。

「瑠瑠獅子神楽保存会」は「瑠瑠獅子神楽子供会」とともに第1日目の第一部、4番手に出演した。演目は以下の通りである。

- ・「傘おどり」(小学生(「子供会」)10名)
- ・「長棒おどり」(小学生(「子供会」)10名)
- ・「手おどり」(小学生(「子供会」)10名)
- ・「酒樽取り」(「保存会」)

配布された「プログラム」の出演者として「瑠瑠獅子神楽保存会」とのみあり「子供会」の記載はないが、実際「酒樽取り」以外の「傘おどり」「長棒おどり」「手おどり」の三演目は小学生(子供会)により演じられたものである。

(4) 平成22年瑠瑠小学校学芸会(11月7日(日))

前項に記した「平成22年度根室市文化祭邦楽舞踊大会」(11月6日)翌日の11月7日(日曜日)、瑠瑠小学校体育館において同校平成22年学芸会が開催された。前日の大会にも出演した「瑠瑠獅子神楽子供会」の子供たちは、二日間連続で獅子神楽を演じたことになる。

【表7】は当日のプログラムである。「瑠瑠獅子神楽子供会」の子供たち(3～6年生)は7番目に登場し、以下の演目を披露した。なお、「獅子神楽子供会」の練習演目および学年ごとの人数構成から、「大神楽」を演じたのは「初心者」たる3・4年生(11名)と、ここに人数の都合上5・6年生より1名を加えた12名、それ以外の10名による演目(「長棒」「手踊り」「傘踊り」)は上級生5・6年生10名と推測される。

- ・「長棒」(10名)
- ・「大神楽」(12名)
- ・「手踊り」(10名)
- ・「傘踊り」(10名)



【写真8】根室市立瑠瑠小学校平成22年度学芸会(平成22年11月7日)

【表7】根室市立瑠瑠小学校平成22年度学芸会プログラム(11月7日(日))

順番	種目	演 題	学 年
1	挨拶	開会のことば	1
2	音楽	勇気100% 他	1・2
3	音楽	ジ・エンターティナー 他	3・4
4	音楽	この地球のどこかで 他	5・6
5	音楽	A Whole New World	器楽クラブ
6	挨拶	PTA 会長・学校長挨拶	
7	獅子神楽	長棒・大神楽・手踊り・傘踊り	3～6
8	遊戯	雨ものがたり	1
9	劇	きつねのごんた	2
10	劇	にんじゃへの道	3・4
11	劇	THE WOLF & THE 7 LITTLE GOATS ～おおかみと7匹の子やぎ 英語劇～	5・6
12	合唱	ぼくのひこうき	全学年
13	挨拶	閉会のことば	6

*平成22年度瑠瑠小学校学芸会プログラムより作成。

5. 考察および今後の課題

以上、根室市瑠瑠地区について概観した上で、同地区における「地域伝承文化」としての「瑠瑠獅子神楽」や、その担い手としての「瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠獅子神楽子供会」の成り立ち、およびその現在の活動状況等といった事柄について、諸種資料や現地調査の成果に基づき報告を行ってきた。

以下では以上の記述に基づき若干の考察を行なって、「瑠瑠獅子神楽」、およびこれをめぐる「教育活動」としての「瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠獅子神楽子供会」の活動の特色や注目すべき点等について述べると同時に、今後の調査・研究の課題について述べておきたい。

瑠瑠地区における「地域伝承文化」たる「瑠瑠獅子神楽」およびこれをめぐる「教育活動」の最大の特徴は、その担い手としての「瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠獅子神楽子供会」の存在と、そこへの学校(教育)の介在であるように考えられる。この点について、

- ① 「瑠瑠獅子神楽」の「郷土芸能」としての成り立ちと「瑠瑠獅子神楽保存会」との関係、
- ② 「瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠獅子神楽子供会」と学校(教育)との関係、および
- ③ 獅子神楽を舞うという「瑠瑠獅子神楽保存会」の実践

との視角から検討を加えつつ、今後の調査・研究の課題を明らかにしていく。

(1) 「瑠瑠獅子神楽」の「郷土芸能」としての成り立ちと「瑠瑠獅子神楽保存会」

「郷土芸能」をさしあたり「その土地に固有・特有」の芸能と辞書的に定義するなら、「瑠瑠獅子神楽」の現在における次のようなあり方は、理念としても実態としても「瑠瑠」地区に特有・固有の文字通りの「郷土芸能」であると言ってよい。

- ・その芸能の名称にその所在する地区名称を冠すると同時に(＝「瑠瑠獅子神楽」)
- ・その担い手(所有者)についても地区名を冠し(＝「瑠瑠獅子神楽保存会」),
- ・瑠瑠地区住民全体を氏子範囲とする,「氏神」としての「瑠瑠金刀比羅神社」例大祭に奉納される。

以上を通じて看取されるのは、その芸能(＝「瑠瑠獅子神楽」)と所在地区(＝「瑠瑠地区」)との固い「結び付き」、芸能の伝承「主体」とその対象(「客体」との間における一対一の対応関係である。

「獅子神楽」およびその担い手(所有者)の名称にそれが所在する地区名を冠することにより強調されるのは、それが「瑠瑠」という地域社会に限定された上で地区全体に共有された、「固有・特有」のものであるということである(「瑠瑠獅子神楽」,「瑠瑠獅子神楽保存会」)。と同時に、このことがまた、「氏神」としての「瑠瑠金刀比羅神社」例大祭に奉納されることにより、神社(例大祭)を媒介として確認され、より強調されていくのである。

だが一方、すでに述べたように、その「獅子神楽」の導入(大正2年)以降におけるその来歴について

- ・「大正2年に齒舞光明寺新築落成入仏式に奉納されたのが始まり」で〔瑠瑠獅子神楽保存会1986, p.11〕,以降昭和2年まで舞わることなく、半ば忘れられた存在であったこと,
- ・したがって、この間、大正12年に瑠瑠金刀比羅神社が創建されるが、その際「瑠瑠獅子神楽」が奉納されたという事実も存在しないであろうこと¹³,
- ・昭和2年に再び舞い始めたのも瑠瑠地区全体の青年たちではなく「1区の青年」たちのみであり¹⁴,「獅子神楽」が瑠瑠地区全体の青年たちに対して開かれていったのは、少なくとも昭和16年の青年団の結成以降のことであると推測されること¹⁵。

を想起するなら、現在における地区に特有・固有の「郷土芸能」としての「瑠瑠獅子神楽」のあり方とは全く異なる様相を示していることが明らかである。

「獅子神楽」の導入当初よりある時点までにおいて、現在、その所在する地区と固く「結び付き」、地区に固有・特有の「郷土芸能」と認識されているその「獅子神楽」は、瑠瑠地区住民全体を氏子の範囲とする,「氏神」

としての「瑠瑠金刀比羅神社」例大祭に奉納されていたわけでもなければ(＝「氏神」としての神社およびその例大祭とも「結び付き」がない),瑠瑠という地区全体に共有されていたわけでもない。すなわちそれは、「瑠瑠」という地区「全体」に特有・固有の「郷土芸能」ではなかったのである。

このことから、その「獅子神楽」と所在地区(＝「瑠瑠地区」)との固い「結び付き」、すなわち現在におけるその「郷土芸能」としてのあり方が、いわば「創造された」ものであることが明らかである。

であるとするならば、その「獅子神楽」と所在地区(＝「瑠瑠地区」)との固い「結び付き」、現在におけるその「郷土芸能」としてのあり方が、いつ、どのようにして、そしてなぜ「創造される」にいたったのかということ、瑠瑠地区における「地域伝承文化」に関する第一の調査・研究課題として挙げなければならないであろう。

現在のところ筆者としては、その「獅子神楽」と「瑠瑠地区」との固い「結び付き」、現在におけるその「郷土芸能」としてのあり方が、「瑠瑠獅子神楽保存会」の結成により完成したものであり、かつその結成時期が、瑠瑠地区住民全体を氏子範囲とする「氏神」としての「瑠瑠金刀比羅神社」の宗教法人化(昭和42年)や社殿の新築再建(同年)、および境内地の獲得(昭和44年)といった時期とも重なっていることなどを顧慮するならば、それらを「瑠瑠」という地区全体を巻き込んだ形で、「郷土」創出運動の一環としてとらえることができるのではないかと考えているが、果たしてどうか。この点については、瑠瑠地区における人口・世帯数や産業別人口構成、産業構造の変化・変動、青年団・婦人会といった各種団体の動向やそれら神社との関係、地区祭礼の変化等といった事柄も踏まえ、なお調査、検討を要する課題であると言わなければならない。

(2) 「瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠獅子神楽子供会」と学校(教育)との関係

すでに本稿中でも触れたように、「瑠瑠獅子神楽子供会」は、昭和53年、「郷土芸能の伝承と後継者育成のために(中略)瑠瑠小学校の協力を得て(中略)3年生以上の希望者(8名)を集めて」結成されたものである。小学校ではこれを「特別活動」と位置付け、週1回、土曜日の午後に「瑠瑠獅子神楽保存会」の会員を指導者として練習を行なった。〔根室市立瑠瑠小学校開校100周年記念奉賛会2001, p.99〕。平成22年度時点においては、同校では「瑠瑠獅子神楽子供会」の活動を「総合的な学習の時間」における学習活動の一環として位置付け、継続していることについてもすでに述べた。

「瑠瑠獅子神楽保存会」およびその下部組織としての「瑠瑠獅子神楽子供会」と学校・学校教育との関係については、前者の後者に対する、そして後者の前者に対する、それぞれ持つ意義・貢献というように、それぞれ個別に検討を加えていく必要があると考える。

まず前者、「瑠瑠獅子神楽子供会」およびその指導(者)組織としての「瑠瑠獅子神楽保存会」の学校教育に対する意義・貢献については、瑠瑠小学校における「瑠瑠獅子神楽子供会」およびその活動の「特別活動」から「総合的な学習の時間」への教育課程上の位置付けのいわば「格上げ」にすでに明らかであろう。その評価については本稿の課題とするところではないが、「瑠瑠獅子神楽子供会」およびその指導者組織としての「瑠瑠獅子神楽保存会」の活動(=「地域伝承文化教育活動」)は、「地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動を行なうこと」あるいは「グループ学習や異年齢集団による学習など多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ(中略)指導体制について工夫を行なうこと」(平成20年3月告示『小学校学習指導要領』『総合的な学習の時間』の「指導計画の作成と内容の取扱い」といった学校教育課程の現代的要請に十分以上に応えるものとなっているのであり、学校側としてもこのような位置づけに対する意識を強く持っている。また、来年度(平成23年度)よりは、「保存会」からの支援も受けて「音楽」の授業において「お囃子」演奏にも取り組む計画があるとのことであった。

一方後者については、たとえば、「保存会」結成から20年を経過した昭和62年当時、瑠瑠小学校校長であった宗岡義雄が次のように述べている。

本校では、昭和53年秋以来、特別活動の一環として、4年生以上の希望者で「子供獅子神楽」を結成し、保存会の方々の熱心な指導を受けながら楽しく練習に励んでいる。主として「大神楽」「長棒」「手踊り」「傘踊り」4つの踊りを習得し、本校学芸会・瑠瑠神社祭・市民文化祭等で出演披露するのが恒例になっている。今年度は市民産業祭に招かれて出演したり、市内小中学校音楽担当の先生方に見ていただいたり(私が、「おはやし」の一部をたて笛とリズム楽器の教材に採譜した関係もあって)子どもたちは張り切って活動している。

早いもので、結成当初入会した子どもたちは21才になり瑠瑠の時代を担うたくましい青年に成長し、今では、修了生が保存会の若手メンバーとして活躍していることは大変嬉しい限りである。この「子ども獅子神楽」を通じ、開拓の歴史を知り、先人の偉業を受け

継ぎ、地域発展に寄与する人間に育ってくれることを願って止みません〔宗岡1986〕。

ここには、瑠瑠地区内に所在し、瑠瑠地区に居住する学齢期児童のすべてが通う「瑠瑠小学校」において、「瑠瑠獅子神楽」を学習活動の一環として取り上げていくことの「瑠瑠獅子神楽」「瑠瑠獅子神楽保存会」に対する意義が端的に述べられている。

「瑠瑠獅子神楽子供会」結成から20年を経た当時、20歳前後であった往時の「子供会」会員は、それからさらに二十数年を経た現在、「保存会」最年長のリーダー層として活躍し、「子供会」の指導にも当たっている。一方、「保存会」会員によれば、小学校では「獅子神楽」の動作の習得に力点が置かれ、その点、笛・太鼓の「お囃子」の習得に課題があるものの、瑠瑠小学校を卒業した者であれば誰でも「瑠瑠獅子神楽」を舞った経験があり、すでに「瑠瑠獅子神楽」の基本を習得しているため、「保存会」の練習では、小学校時代に練習しなかった演目の練習を中心に行うという。

こうした意味において、瑠瑠小学校における「瑠瑠獅子神楽子供会」の活動は、「瑠瑠獅子神楽」の基本を習得する場となっているのであり、「保存会」会員およびその技芸の将来における量的拡大・質的向上、言わば「瑠瑠獅子神楽」をめぐる「世代の再生産」に多大な貢献をしているといえることができる。

その結成当時、「子供会」の指導にあたった「保存会」会員は、その意図していたところについて次のように述べている。

(昭和—引用者・注)43年は根室市文化奨励賞を受賞したので荷が重くなり、これは大変だと会員で伝承に努めました。／後継者養成をどうしたらよいかと相談しその結果瑠瑠小学校にお願いして獅子神楽子供会を昭和53年に結成しました。本当に学校の校長先生始め諸先生がよく協力してくれました〔瑠瑠獅子神楽保存会1986, pp.11-12〕。

「後継者養成をどうしたらよいか」と悩んで「小学校にお願いし」、「瑠瑠獅子神楽子供会」の結成へと結びつけていった往時の「保存会」会員のその企図は、現在までのところ成功しているといえることができる。

一方、平成22年現在の瑠瑠小学校校長・粥川敏宏先生からは、「保存会」「子供会」と学校との関係についての筆者の質問に対し、次のようなお答えをいただいた。

若い方が率先して応援してくれるんですね、青年の方が。あれはやっぱり、小学校時代にそうやって教

えていただいた機会があって、自分たちもそういう立場になったらやるんだ、やらなくちゃいけないんだという自覚を持ってらっしゃると思うんですね（平成22年9月15日インタビュー）。

「瑠瑠獅子神楽」という「地域伝承文化」をめぐる「地域伝承文化教育活動」のあり方を、「瑠瑠獅子神楽保存会」と「瑠瑠獅子神楽子供会」との関係を中心として、学校（教育）との関係において全体的にとらえるならば、学校としては、「瑠瑠獅子神楽」という「地域伝承文化」をめぐる「教育活動」を学習活動の一環として教育課程の中に位置付け、取り入れることにより、学校教育の目的・理念の実現を図るとともに、「保存会」に対しては、その「教育活動」にかかる時間と場所とを確保・提供し、このことにより「瑠瑠獅子神楽」という「地域伝承文化」をめぐる将来的な「世代の再生産」に、その担い手（＝「保存会」会員）の量的拡大・質的向上という面において協力・貢献している、ととらえることができよう。

さて、瑠瑠地区における、このような「地域伝承文化」をめぐる「教育活動」を介して見られる地域社会と学校（教育）との関係のあり方は、ある意味理想的な状況の一つの極みと言えるかもしれない。

しかし、このような理想的な状況も、指導者組織としての「瑠瑠獅子神楽保存会」の存在なくしては困難であるということができるのではなからうか。とするならば、いわゆる「保存会」的組織の存在しない地域社会における「地域伝承文化」や、それをめぐる「教育活動」のあり方とはどのようなものか、あるいは「保存会」的組織が存在しても、それが学校における教育課程の中に取り入れられず、位置付けられていない場合、「地域伝承文化」やこれをめぐる「教育活動」はどのように行われているのか、こうした疑問を、フィールドワークに基づき一つ一つ検討していくことが、今後の課題となってくるであろう。またこうした課題を一つ一つ検討していくことが、瑠瑠地区における「地域伝承文化」をめぐる「教育活動」の特徴を、さらに浮かび上がらせていくことにもつながっていくと考えられるのである。

一方、上記のような瑠瑠地区における「地域伝承文化」としての「瑠瑠獅子神楽」およびその「教育活動」をめぐる理想的な状況に、今後課題がないわけではない。

「特別活動」から「総合的な学習の時間」へという教育課程上の位置付けの変更に伴って、当初希望者のみを対象として行っていた「子供会」の活動も、瑠瑠小学校に通学する児童全員（3年生以上）を対象とすることとなった。実は、瑠瑠小学校は、瑠瑠地区のみならず、隣接する納沙布地区も通学区域としており、かつ納

沙布地区には納沙布地区住民を氏子範囲とする「納沙布金刀比羅神社」が存在し、瑠瑠金刀比羅神社と同一の日程で独自に例大祭を行なっている。さらに納沙布地区には独自の「郷土芸能」や「保存会」組織は存在していないと聞き、仮に「納沙布地区の子供たちには納沙布金刀比羅神社で獅子神楽を演じてほしい」との要請が存在したとするならば、こうした要請はむしろ当然のこととも感ぜられよう。実際、上記のような事態に対し、「瑠瑠獅子神楽子供会」やその指導組織である「瑠瑠獅子神楽保存会」、さらにはその活動を支援してきた学校も、一定の配慮を行なってきた経緯があるとも聞かれるのである。

さらに言うなら、実は平成25年度より、瑠瑠小学校は近接する共和・華岬・温根元の三小学校とともに歯舞中学校に新たに附設される歯舞小学校（仮称）へと統合されて、廃校される運びとなっている。異なる歴史や伝統、「郷土芸能」や「地域伝承文化」をもつ複数の地区を通学区域とすることになるこの新たな小学校において、「瑠瑠獅子神楽」がどのように取り扱われていくことになるにしろ、「瑠瑠獅子神楽」という「郷土芸能」「地域伝承文化」をどのように維持・発展させていくことができるかということが、現在における「瑠瑠獅子神楽」に関わる人々の懸念材料の一つともなっているものであり、前項において見た、今後における「郷土」や「郷土（意識）の創出」と地域社会（「地域伝承文化」や神社）と学校、学区といった問題とも関わって、筆者自身も注目していきたいと考える。

(3) 獅子神楽を舞うという「瑠瑠獅子神楽保存会」の実践

さて、平成22年度瑠瑠金刀比羅神社例大祭、10月3日日本祭当日、「山登り」が終わった後の、「瑠瑠獅子神楽保存会」および「小学生」による「獅子神楽」奉納での出来事である。本殿前まで行進すると、奉納行事に参加する各団体は、本殿前広場を舞台に見立てるように輪になって座り自分たちの出番を待つことになるが、その中に「よさこい」を奉納する保育園児の団体があった。このうちの数名が、「保存会」「子供会」による「獅子神楽」の奉納が始まると、保存会員の演奏する笛・太鼓のお囃子に合わせ、観客席の後方で「獅子神楽」の真似をしながら踊り出したのである。

「座談会」において「瑠瑠獅子神楽子供会」結成の経緯とその意義について述べていた「保存会」会員は、すでに引用した発言に続いて次のように述べている。

毎週土曜日放課後保存会の者が学校に出向き獅子神楽を教えるのも大変でした。子どもは覚えるのに時間

がかかりませんね。／好きでなければ子供でもなかなかおぼえないものですよ。毎年瑠瑠神社の祭典で実際に私たちの踊りを見ていたので興味もあったのでしょうね。これがほかの町会の子供たちだったら大変だったと思いますよ〔瑠瑠獅子神楽保存会1986, pp.11-12〕。

子どもたちに興味をもって「獅子神楽」を覚えてもらうためには、まず実際に舞われている「獅子神楽」を見てもらう必要があります、また手取り早い。ここで指摘されているのは、こうした、いわば「当たり前」の事実であろう。しかし一方、舞われている「獅子神楽」を見てもらうためには、実際に「獅子神楽」が舞われていなければならない。このような、実際に「獅子神楽」が舞われ、それを見ることができるといふ「当たり前」を再現し続けてきたものこそが、「獅子神楽を舞う」という「瑠瑠獅子神楽保存会」の活動・実践そのものなのである¹⁶。

結びにかえて

以上、本稿では、北海道道東地方、とりわけへき地・小規模校における「地域伝承文化」および「地域伝承文化教育活動」について、根室市瑠瑠地区における「瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠獅子神楽子供会」を事例として、その成り立ちの経緯や現在の活動等についてフィールドワークの成果に基づき報告を行なうと同時に、これに基づき若干の考察を行なう、上記研究にかかる今後の調査・研究課題について述べてきた。

とりわけ瑠瑠地区における「地域伝承文化」としての「瑠瑠獅子神楽」や、その担い手としての「瑠瑠獅子神楽保存会」「瑠瑠獅子神楽子供会」の成り立ち、およびその現在の活動状況等といった事柄について注目し、「瑠瑠獅子神楽」をめぐる「教育活動」の特色について、

- ① 「瑠瑠獅子神楽」の「郷土芸能」としての成り立ちと「瑠瑠獅子神楽保存会」との関係、
 - ② 「瑠瑠獅子神楽保存会」の下部組織としての「瑠瑠獅子神楽子供会」と学校（教育）との関係、および
 - ③ 獅子神楽を舞うという「瑠瑠獅子神楽保存会」の実践
- といった観点から検討を加えた。

個々の検討課題については、前節において詳しく述べてきたので繰り返しを避ける。そうした課題がある一方で、これら課題について検討を加えていくためにも、本稿はじめにでも述べたような、道東地方の各地において

町内会や地区、神社や学校を単位として刊行され続けてきた『町内会史』『記念誌』『沿革史』といった諸種の資料の所在の確認、収集・整理といった作業が必要であることを再度確認しておきたい。

注

- 1 さしあたり、本稿では「地域伝承文化」について、『小学校学習指導要領』（平成20年告示）でいうところの「地域の人々の暮らし、伝統と文化」、「地域伝承文化教育活動」については「地域伝承文化を前の世代が次の世代に伝え、次の世代が引き継いで発展させていくためのあらゆる活動や試み」と考える〔渡邊陽子2009〕。「地域伝承文化」および「教育活動」といった概念については引き続き検討が必要である。
- 2 また、宮良は北海道における民俗学研究的意義として「政治的・経済的には『僻遠の地』にある北海道の立場から逆照射して、日本の文化を浮き彫りにする方法を提示でき」ることであると述べているが〔渡邊欣雄・桑原真人1993〕、筆者も宮良のこの基本的問題関心を共有するものである。
- 3 これらについて瑠瑠地区に関していえば、
 - ・瑠瑠獅子神楽保存会1986『結成20周年記念誌「あゆみ」』
 - ・瑠瑠金刀比羅神社御創祀70周年記念事業実行委員長編1993『瑠瑠金刀比羅神社御創祀70周年記念誌』
 - ・記念協賛会編集委員会委員長松本良一編1979『根室市立瑠瑠小学校校舎増築落成／開校80周年記念誌』
 - ・根室市立瑠瑠小学校開校100周年記念奉賛会2001『根室市立瑠瑠小学校開校100周年記念誌 霧笛』といったものがあり、本稿における記述もこれらによるところが大きい。
- 4 根室市には落石漁業協同組合・根室漁業協同組合・根室湾中部漁業協同組合・歯舞漁業協同組合の4つの漁業協同組合があり、瑠瑠地区は友知・歯舞・双沖・納沙布・豊里の他の根室半島に所在する各地区とともに歯舞漁協に属している。
- 5 【別表1】は根室市内に所在する神社の一覧である。ここに見るように、根室市内には23の神社が所在するが、常勤の神職があるのは根室金刀比羅神社のみで、同神社の宮司がすべての神社の宮司を兼務している。うち、宗教法人化されているのは9つの神社で、瑠瑠金刀比羅神社の所属する歯舞漁業協同組合地域内では歯舞神社（歯舞地区）と瑠瑠金刀比羅神社のみが法人格となっている。また、例祭日を見ると6月15日、同16日、9月20日、同28日、10月10日と集中している

【別表1】根室市域における神社一覧

神社名	鎮座地	例祭日	備考
穂香金刀比羅神社	根室市穂香	6月10日	
根室出雲神社	根室市定基町	6月15日	宗教法人
和田神社	和田	6月15日	宗教法人
巖島神社	温根沼	6月16日	宗教法人
幌茂尻稲荷神社	幌茂尻	6月16日	
厚別稲荷神社	東梅	6月16日	
根室市護国神社	平内町	8月22日	
初田牛神社	初田牛	8月下旬	
蒼前神社	厚床	9月上旬	
別当賀神社	別当賀	9月12日	
三吉神社	花園町	9月17日	宗教法人
市杵島神社			宗教法人
落石金刀比羅神社	落石	9月20日	宗教法人
浜松八幡神社	浜松	9月20日	
華盛稲荷神社	昆布盛	9月20日	
長節八幡神社	長節	9月20日	
齒舞神社	齒舞	9月28日	宗教法人
瑠瑠瑠金刀比羅神社	瑠瑠瑠	9月28日	宗教法人
双沖金刀比羅神社	双沖	9月28日	
友知稲荷神社	友知	9月28日	
豊里神社	豊里	9月28日	
花咲港金刀比羅神社	花咲港	10月10日	宗教法人
納沙布金刀比羅神社	納沙布	10月10日	

* [金刀比羅神社奉賛会1986, p.147] および根室金刀比羅神社宮司・前田康氏へのインタビュー(平成23年9月8日)より作成。

様子が見てとれるが、これは

- ① 同一の漁業協同組合に所属する各地区がそれぞれ独自の日程で例大祭を行なった場合、漁業を主幹産業とする地区では休漁日も異なってくるようになってしまうので、漁協の市場としての機能が成り立たないという漁業協同組合の事情と、
- ② 児童・生徒を地区祭礼に参加させたいとの各地区の意向があり、複数の地区にまたがり学区が構成される小学校においては、地区ごとに祭礼日程が異なれば、欠席する児童・生徒が日ごとに異なることになり授業が成り立たなくなってしまう

という学校教育上の事情を勘案してのことである。ただこの場合、神職としては大変忙しく、たとえば宵宮の儀式を午後5時、6時からという各地区からの希望もあるが、そのすべてに対応することは困難で、場合によっては宮司と禰宜とで分担し、宵宮儀式が午後3時からという地区もでてくることになるという(平成23年9月9日、根室金刀比羅神社宮司・前田康氏へのインタビュー)。なお、【別表1】にみられる例大祭日程は『金刀比羅神社御創祀180年記念誌』が発行された昭和61年段階におけるものであり、今後の調査により適宜修正が加えられていくべきものであることを

付記しておく。

6 ここではさしあたり、のちに「瑠瑠瑠獅子神楽」と呼称されることになる富山より導入されたこの「獅子神楽」が、往時においては瑠瑠瑠全体の「青年」によってではなく「1区青年」によってのみ舞われ演じられるものであったこと、大正12年に瑠瑠瑠金刀比羅神社が創建されたが、当時「獅子神楽」は半ば忘れ去られた存在であったこと、という2点に注目しておきたい。その芸能(獅子神楽)の往時の瑠瑠瑠地区におけるあり方が、現在における瑠瑠瑠地区「全体」に共有された、地区に特有・固有の「郷土芸能」としての「瑠瑠瑠獅子神楽」のあり方とは全く異なる様相を示していると考えられるからである。

7 終戦直後の瑠瑠瑠地区の青年および瑠瑠瑠獅子神楽をめぐる動向については次のような記述がある。

20年8月終戦となり復員して見れば、国破れて山河あり故郷の風景は何も変わって居ませんでした。が、青年団その他の組織は解散して居り無秩序の状態でした。そこで同志相謀り21年、戦後の青年団を結成、団長に中村與吉氏をお願いしました。獅子舞も滝沢顕、佐々木良平、石田実君達に伝承し、後事を託して22年で青年団及び獅子舞の関係から退きました〔斉藤1986, p.18〕。

物もない、娯楽もない終戦直後の混乱期で若者達が軍国主義から解放され、その急激な時代の変化に戸迷いながらも、何かの目的を求め活動していた青年運動の華やかな時代でもありました。／楽しみといえば、秋の祭りと、冬はカルタとりぐらいであったと思います。特に秋の祭りは沖も休んで村挙げての楽しみでしたが9月中頃齒舞地区を皮切りに、10月初め友知地区を最後にお祭りシーズンが終るといった具合に、各地区毎、別々に行われ、夜は神社の境内に舞台を組んで青年達がそれぞれ趣向を凝らした手作りの踊りや演劇が披露され、その地区の大人も子どもも総出で見物を楽しんだものです〔平山1986, p.29〕。

戦後齒舞地区の秋に行われるお祭りは、地域の青年団が中心となり、本当ににぎやかでした。／友知青年団の寸劇、双沖青年団の舞踊、齒舞青年団の舞踊と子供獅子舞、瑠瑠瑠青年団の劇と獅子神楽とそれぞれユニークなものでした〔清水1986, p.30〕。

私が獅子神楽の仲間に入ったのは、瑠瑠瑠中学校の卒業と同時に青年団に入団した時からです。／当

時の青年団の活動の一環として、獅子神楽をお祭りで奉納するのが楽しみでした〔高橋1986, p.23〕。

以上のような記述より、瑠瑠獅子神楽をめぐる戦後～瑠瑠獅子神楽保存会結成（昭和42年）にかけての約20年間の動向は、瑠瑠青年団を中心として、瑠瑠金刀比羅神社例大祭はじめ隣接歯舞地区の歯舞神社例大祭等において舞われていたのではないかと推測されるのである。

- 8 『根室市立瑠瑠小学校開校100周年記念誌 霧笛』には次のようにある。

戦後青年団が解散してからも青年たちに呼びかけて神楽の維持に努めてきたが、テレビの普及や自家用車時代になると娯楽を中心とした青年たちの集いである神楽の練習は、自然に疎遠されるに至った。このまま消滅させるには忍びないと昭和42年に保存会が結成され43年には根室市の無形文化財に指定されると共に根室市文化奨励賞を受賞した。／しかし、それ以降も後継者の確保に難があり、昭和54年には会員数が17名となり、年齢も50歳代が中心となった／現在は後継者の育成が順調に進み、青年が中心となって保存と伝承のため、地道な活動を進めている〔根室市立瑠瑠小学校開校100周年記念奉賛会2001, p.99〕。

- 9 平成22年9月15日、18時30分より瑠瑠金刀比羅神社「参集所」にて行われた瑠瑠獅子神楽保存会の練習を見学させていただいた。この日の練習に集まった保存会会員は13名（舞い手7名、お囃子6名。会員でも獅子神楽を舞う会員とお囃子をする会員とに分かれているという）、その他、瑠瑠小学校の児童（3年生が2名、4年生1名）が訪れていた。
- 10 平成22年5月28日（金曜日）『根室新聞』記事「子供獅子神楽入会式一消さないぞ！伝統の踊りー3、4年生11人が入会」によれば、「瑠瑠獅子神楽子供会」では瑠瑠小学校体育館を会場として、「瑠瑠獅子神楽保存会」会員（会長・副会長・事務局長）も招いて入会式を行なった。これにより「子供会」の会員は5・6年生が10名、3・4年生が11名（新入会員、3年生3人、4年生8人）の計21名となった。記事では昨21年度まで子供会への入会が4年生以上であったのが、22年度より3年生以上となった理由について「児童数の減少」をあげているが、こうした事情もさることながら、「特別活動」から「総合的な学習の時間」へという学校における教育課程上の位置づけの変更も、大きな要因であったのではないかと推測される。

また、こうした教育課程上の変更に伴い、当初希望者のみを対象として行っていた「子供会」の活動が、瑠瑠小学校に通学する児童全員を対象とすることとなる点にも注目しておきたい。瑠瑠小学校には瑠瑠地区のみならず、隣接する納沙布地区の学齢期児童も通学しており、したがって、学校におけるこうした教育課程上の位置づけの変更が、その名称に「瑠瑠」とその所在する地区名を冠する「郷土芸能」の担い手に、瑠瑠地区に居住する者以外の者が含まれることになることを意味するからである。

- 11 本来「酒樽取り」は「子供会」の演目として想定されてきておらず、小学校における「総合的な学習の時間」の枠内において行われる「子供会」の練習としても行なわれていない。平成22年9月15日、瑠瑠地区を訪れ、この日瑠瑠小学校体育館（14時30分～15時30分）、瑠瑠金刀比羅神社参集所（18時30分～）において行われた「子供会」「保存会」による練習を見学する機会を得た。しかし、ここでは小学生による「酒樽取り」が小学校体育館における「子供会」の演目として練習されることはなかった。小学生による「酒樽取り」は、18時30分より神社参集所において行われた「保存会」の練習の一環として行われ、その際には保存会会員である大人が隣に寄り添い、「もっとこうした方が…」といったアドバイスを行ないながらの練習や、セリフの短縮、簡略化などの工夫が見られた。中でも赤天狗と緑天狗とがお互いに「我こそは…」と名乗り合う場面があるが、この部分にそれぞれ本名を名乗り合うという変更が加えられ、本番では観客の拍手喝采を浴びた。
- 12 かつて行われていた神輿の町内巡行（神輿・山車の行列）が諸種の事情により簡略化されたものと考えられる。瑠瑠金刀比羅神社の例大祭日程・奉納行事等の変化については別稿を準備する。
- 13 瑠瑠獅子神楽保存会1986『結成20周年記念誌「あゆみ」』に掲載された座談会記録には、「私たちの聞いたところでは昭和2年までは踊っていなかったそうです」とある〔瑠瑠獅子神楽保存会1986, p.11〕。この発言からは、大正2年の瑠瑠金刀比羅神社創建時には、「獅子神楽」と瑠瑠金刀比羅神社との「結び付き」に関する認識が存在しなかったことが明らかである。
- 14 上記発言に続き、この話者は次のように続ける。「このままではと言って滝沢宗次郎さんが世話役になって瑠瑠1区の青年に呼びかけ習い始めました」〔瑠瑠獅子神楽保存会1986, p.11〕。
- 15 上記注9・10同様、瑠瑠獅子神楽保存会1986『結成20周年記念誌「あゆみ」』に掲載された座談会記録

による。「記憶に残っているのは、昭和16年に青年団が結成されその時青年団に一区の人から引き継がれたわけです」とあり、少なくともこれ以前の段階（昭和16年以前）においては「1区青年」によってのみ「獅子神楽」が演じられていたものと考えられる〔瑠瑠獅子神楽保存会1986, p.11〕。

16 この点について、先にも引用した保存会結成から20周年当時（昭和62年）、瑠瑠小学校校長であった宗岡義雄は、「昨年（昭和61年か—引用者・注）瑠瑠保育園の『おゆうぎ会』に招待されて参観させていただいた折」の感想として次のように述べている。

最後の出し物として園児三名による獅子舞「酒樽盗り」が披露された。玉の汗を流して熱演、堂に入った演技に驚嘆大喝采になった。この子等は、自主的に見様見まねで踊り先生方の指導の手は一切入っていないとのことである。改めて、血筋とか伝統ということについて考えさせられた〔宗岡1986, p.6〕。

【参考文献】

- 「角川日本地名大辞典」編集委員会編1987『角川日本地名大辞典 1 北海道 下巻』角川書店
- 瑠瑠獅子神楽保存会1986『結成20周年記念誌「あゆみ」』
- 斉藤肇1986「瑠瑠獅子神楽の思い出について」瑠瑠獅子神楽保存会『結成20周年記念誌「あゆみ」』
- 清水和夫1986「私と瑠瑠獅子神楽との出会い」瑠瑠獅子神楽保存会『結成20周年記念誌「あゆみ」』
- 高岩光男（発行責任者）1993『瑠瑠金刀比羅神社御創祀七十周年記念誌』
- 高橋精治1986瑠瑠獅子神楽保存会『結成20周年記念誌「あゆみ」』
- 記念協賛会編集委員会委員長松本良一編1979『根室市立瑠瑠小学校校舎増築落成／開校80周年記念誌』
- 根室市立瑠瑠小学校開校100周年記念奉賛会2001『根室市立瑠瑠小学校開校100周年記念誌 霧笛』
- 平山芳夫1986「私と瑠瑠獅子神楽の思い出」瑠瑠獅子神楽保存会『結成20周年記念誌「あゆみ」』
- 平凡社地方資料センター2003『北海道の地名』（日本歴史地名大系第1巻）平凡社
- 宗岡芳夫1986「子ども獅子神楽に思う」瑠瑠獅子神楽保存会『結成20周年記念誌「あゆみ」』
- 渡邊洋子2009『「伝承・習い事」文化における学習様式と生涯学習の現代的課題に関する比較研究』（平成18年度～平成20年度科学研究費補助金（基盤研究(B)) 研究成果報告書）
- 渡邊欣雄・桑原真人1993「日本文化を考える—北海道の

視点から」『日本民俗学』194, 第44回年会シンポジウム「日本文化を考える—北海道の視点から」

【謝 辞】

本稿執筆に際し、次の方々に大変お世話になりました。記して御礼申し上げます。

根室金刀比羅神社宮司・前田康氏、瑠瑠金刀比羅神社責任役員・工藤繁志氏、根室市立瑠瑠小学校校長・粥川敏宏先生、瑠瑠獅子神楽保存会会長・小田島義浩氏はじめ瑠瑠獅子神楽保存会、瑠瑠獅子神楽子供会のみなさま